

第 2 回 玉名市景観計画策定委員会 議事録（概要）

■開催日時・場所

平成 27 年 2 月 18 日（火） 10 時 00 分～12 時 00 分

玉名市役所 2F 2-2 会議室・2-3 会議室

■次第

1. 開会あいさつ
2. 委員あいさつ
3. 報告
 - (1) 第 1 回策定委員会について
 - (2) 第 2 回景観学習会及び第 3 回景観学習会の実施報告
4. 議題
 - (1) 玉名市の景観課題について
5. 今後の予定について
6. その他

■配布資料

1. 第 2 回玉名市景観計画策定委員会 次第
2. 玉名市景観計画策定委員会 委員名簿
3. 【資料 1】第 1 回玉名市景観計画策定委員会議事録
4. 【資料 2】玉名市景観計画策定委員会 資料 -基礎データ-
5. 【資料 3】玉名市景観計画策定委員会 資料 -景観特性と課題-
6. 玉名市景観学習会たより

■会議風景



■出席者名簿

継承略・順不同

※名前の後ろに ◎：委員長、○：副委員長

区 分	所 属	役 職	氏 名	出欠席
学識経験者	崇城大学	教授	秋 元 一 秀 ◎	○
学識経験者	熊本大学	准教授	田 中 尚 人 ○	○
市議会議員	玉名市議会建設経済委員会	委員長	福 嶋 讓 治	○
関 係 団 体	熊本県建築士会あらたま支部	運営委員	楠 本 英 弘	○
関 係 団 体	玉名商工会議所	-	羽 山 眞 澄	○
関 係 団 体	玉名市商工会	観光部会長	森 山 耕 治	欠席
関 係 団 体	(一社) 玉名観光協会	事務局長	柿 添 克 也	○
関 係 団 体	玉名市農業委員会	農業委員	本 田 多 美 子	○
関 係 団 体	玉名市文化財保護審議会	副会長	前 川 清 一	○
関 係 団 体	高瀬まちづくり協議会	会長	矢 田 部 知 明	○
関 係 団 体	玉杵名フォトサークル	副会長	坂 本 良 臣	○
公 募	一般公募	-	森 辰 興	○
公 募	一般公募	-	津 崎 五 記	○
行 政	熊本県玉名地域振興局	景観建築課長	佐 澤 毅	○
行 政	熊本県玉名地域振興局	維持管理調整課管理総務班長	堀 口 彰 史	○
事 務 局	玉名市建設部	建設部長	藤 井 義 三	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	建設課長	磯 谷 章	○
事 務 局	玉名市教育委員会文化課	課長補佐	竹 田 宏 司	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	係長	神 永 和 典	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	主査	森 田 文 子	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	主任	川 原 三 世 子	○
支援事業者	ランドブレイン株式会社	福岡事務所	山 田 快 広	○
支援事業者	ランドブレイン株式会社	広島事務所	鈴 木 将 光	○
支援事業者	ランドブレイン株式会社	広島事務所	駒 井 達 也	○

■議事録

1. 開会あいさつ

(玉名市建設課長 あいさつ：記録省略)

2. 委員長あいさつ

委員長	2回目の委員会になるが、その間に3回の学習会、2回の見学会を開いた。この後、最後に事務局から今後の委員会の話があるかと思うが、次回からは具体的な内容に入る予定である。本日はそのための課題整理を行う。3回の学習会を通して、玉名の周りに当たり前のようであった景観を、再度見直す機会になったかと思うので、今一度、玉名の景観に対して皆さんの問題点、課題を整理していただきたいと考えている。よろしくお願いいたします。
-----	---

3. 報告

(1) 第1回策定委員会について

(説明：事務局)
資料説明記録省略

(2) 第2回景観学習会及び第3回景観学習会の実施報告

(説明：事務局)
資料説明記録省略

4. 議題

進行：委員長

(1) 玉名市の景観課題について

(説明：事務局)
資料説明記録省略

副委員長	<p>景観特性と課題の資料（資料3）がまとまり過ぎていたという話を委員長とさせて頂いた。そこで、委員会としての案を皆様と一緒に作成したほうが良いのではないかと考えた。本日はワークショップのような形で議論を進めさせて頂ければと考えている。できるだけ皆様に話していただこうかと思っている。</p> <p>本日の目的は景観上の課題を皆様と一緒に話し合うということが大目的になる。本課題を今年度中に考えることができれば、来年度はこれに対する解決策を考えることに集</p>
------	---

	<p>中することができる。昨今の景観と言っても、まちづくり、歴史、ハード、ソフトの話等、多くのことを議論する必要があるので、もう一度何が大事なのかを話して頂くことが大切だと考えている。</p> <p>議論を始める前に、ワークショップの約束事を三つ確認させて頂く。一つ目は他の人を否定しないということ。二つ目は人の話を聞く。三つ目は自分の言葉で話す、この3点を守っていただいて、今から集中して議論したいと考えている。</p> <p>まずは皆様にそれぞれ一番課題だと思う点をなるべく具体的に話して頂ければと考えている。「あなたが考える玉名の景観上の課題」というのをテーマにあげたいと思う。</p>
委員長	玉名の景観は何かと聞かれて、一言で表現できない点が課題である。
委員	計画策定の目的が人を呼ぶための策定なのか、それとも居住者のために景観を策定するのか、目的がどちらなのか、わからない。基本的に居住者が生活を続けていくために計画を策定することが良い形ではないかと考えている。
副委員長	「景観計画のターゲットが分からない」、「居住者のための計画になっていない」という2点の課題を提示して頂いた。
委員	景観形成の目的を明確にすることが大事だと考える。玉名市には川、海、山がある。少子高齢化に向かっていく中で、まちづくりのひとつとして、その様な資源を生かし、住んで気持ちの良いまちにすることが、一番の目的だと考える。所々の地域の資産を掘り起こし、全体的にきれいな町並みをつくり、できるだけ人口が減らないように出来れば良いと考えている。
副委員長	「人口が減少している」という課題を提示して頂いた。
委員	景観とは何かということを考え、住民の意識を高める。玉名市内の景観の存在を知ること、また、見る事が課題である。
副委員長	「見る事が大事」という意見を頂いた。市民の意識が低いという点が課題だということだと考える。景観の良いところが「あまり見えていない」という点が課題であり、そのため、景観の良い点を見ていかなければならないということだと考える。
委員	観光という視点で述べると、市には、地域の人が見て良いと感じるものを明確に見せることができていないと思う。そういった意味で、地域住民が良いと思うものを情報として示すことができるような景観計画をつくる必要があると考える。具体的に言えば、「この景観は、この場所から見たほうが良い」というような場所、視点場を情報として流すことは必要だと考える。
副委員長	ありがとうございます。「良い所も楽しい人も多く居るので、それをしっかり見せていかなければならない」ということだと考える。つまり「ちゃんと見せられていない」と

	<p>ということが課題だと考える。</p>
委 員	<p>私は農業委員として参加しているが、資料にも書いてあるように耕作放棄地が多くあるという問題がある。経済のグローバル化により、農業で生活することが難しくなっている。そのため、耕作放棄地が増加しているということは仕方ないことであるが、耕作地が保たれるからこそ、美しい景観が保たれると考える。高齢化や鳥獣被害により、耕作地の管理が行き届かない景観も増加してきたが、その解決策を検討する必要があるかと思う。</p>
事 務 局	<p>玉名市には農村部もあり、「農村風景が良くなしないと玉名市の風景も良くなならない」という考えだと思う。課題としては、「農業自体が苦しい」ということだと考える。</p>
委 員	<p>市外の方から玉名市を見たときに、どんな景観を紹介できるかということだと考える。私が子供の頃は立願寺温泉が大変賑わっていたが、現在は町並みも含め、山鹿に大きく差を付けられている。山鹿が行っているような取り組みや戦略を参考にしていく必要があると考える。</p>
副 委 員 長	<p>「玉名市に何があるのか分からない」という意見は多い。また、「戦略がない」という意見はまさに、この景観計画自体が一つの戦略になるかと考える。</p>
事 務 局	<p>市民の景観の意識が低いという点と、そういった景観についての議論を行う場がないということが問題だと考える。</p>
事 務 局	<p>玉名市は良いところが多くありすぎるのだと考える。そのため、玉名市の住民も自分の地域の良さが実は分かっていないのだと考える。(アピール不足もある)</p>
事 務 局	<p>市民の方自身が玉名市の景観に自信を持っていないと考える。景観資源は多様であるのに、玉名にはなにもないということをよく市民の方から聞く。</p>
副 委 員 長	<p>「意識が低い」と「自信を持てていない」というのは意味合いが少し違う。両方大事なことだと考える。</p> <p>事務局の方から役所内での課題を教えてもらいたい。</p>
事 務 局	<p>特に職員には玉名市の良いところを率先してアピールするといった動きや、誇りを持つというような意識が大切だと考える。玉名市全体の景観への意識が低く、誇りが持てていないという点はそういった職員の意識ともつながっているのではないかと考えている。</p>
事 務 局	<p>職員の意識が低いと考えている。自身の担当する課以外については「関係がない」という意識があるかと思う。その点が一番の課題だと考える。</p>
副 委 員 長	<p>「関係ないと思っている」、「自分の仕事ではないと思っている」というに対しての解決は非常に大事だと考えている。先程の農業の話にも当てはまるが、景観に関係のない</p>

領域というものはほとんど存在しないと考えている。

委員長 幹線道路沿いの看板の、屋外広告物の規制を行っているが、今、一番苦労しているのは国道 208 号線である。平成 30 年度には国道 208 号線は移管され県の管轄となる。現在基本的に商業地区なので、規制はなく比較的自由な地域であるが、208 号線周辺は半分以上、大資本、県外資本が入っているので景観の統一が難しいのではないかと考えている。

副委員長 課題は「玉名市外の人も関わっている」ということだと考える。「外部の人も関係者である」ということだと思う。

委員長 人口減少という話があったが、景観を保全する活動の担い手が減少しているという点に課題があると思う。配布資料にも活動を休止している市民団体があるということが示されている。また、メリハリのある整備を行う必要があると思う。路線、幹線道路沿いで景観がずっと同じである。地区レベルでの整備が必要だと考える。また、市民のイメージと現行とのギャップがあると思う。アンケートでも玉名市は情緒豊かな温泉街というイメージが一番強い結果となっているが、それが現状と相違があり、他の良い景観にまだ気付いていないと考える。

副委員長 「担い手が居ない」という問題を提示して頂いた。また、メリハリのある整備とは何かと考えたときに、「玉名市の景観の良いところが分かっていない」ということにもつながるかと思う。「意識と現状にギャップがある」という意見は、重要な課題だと思う。玉名市には景観資源が豊富であり、自分達が居住している地域しか分からないという現状が、皆様の認識かと思う。そう考えると、玉名市を大きく見ている方には、「意識と現状にギャップがある」というように見えるが、市民生活からすると、自分たちの地域は変わっていないと考える人が多いと思う。しかし実際は、新駅や新庁舎が完成し、どんどん市の町並みは変化している。

委員長 景観計画を展開するに当たって、市民の方々を対象に、定期的に意見交換会などを行うことも必要だと考える。これを行わないと、末端まで景観を周知することができないのではないかと考える。市民の協力があっての、景観計画ではないかと考えている。

副委員長 市民との意見交換、「市民とのコミュニケーションがない」という意見を提示して頂いた。

委員長 市民や市職員の中に笑顔が少ない。笑い声が少ないと考えている。この点が課題であると思う。

委員長 一人一人の気持ちの持ち方が重要だと考えている。例えば、ごみの分別を行う、ポイ捨てをしない等、そのような視点から意識を高めていく必要があると考えている。住民

の花づくりといった、ちょっとしたきっかけで、まちづくりに成功した事例もある。

委 員	景観の課題は、市民の皆様の協力に関することが一番だと考えているが、先程、意見としてあったように、玉名市には良いところが多過ぎると考えている。景観学習会で訪問した横穴観音、堤防のような景観資源の歴史を知ることが大事だと考える。歴史を知ること、玉名市外の方へ説明もできると思う。
副 委 員 長	「玉名市の人は歴史をぞんざいにしている」ということか。
委 員	そういうところもあるかと思う。
事 務 局	来年度楽しく景観計画の策定を進めていきたいので、今年度のうちにできるだけ玉名の景観上の課題・膿を出していきたいと考えている。先程の意見は、「歴史認識、歴史に対する認識が弱い」ということだと思う。多くの景観資源がある中で、どこから取り組むのが一番良いかを考えたときに、歴史の面から整備していくのが、景観整備に直結するのではないかと私自身も考えている。厳しい表現かもしれないが、玉名の人が歴史を軽んじている傾向があるという面は、重大な課題ではないかと考えている。
副 委 員 長	コンサルからも意見をお聞きしたい。
事 務 局 (コンサル)	新幹線の駅やインターからの道など、アクセス道路の部分の演出が景観上ほとんどないと感じる「町の顔がない」に近いかもしれない。
委 員 長	おもてなしの部分として、「景観としての顔を見せる」必要はあるかと思う。
事 務 局 (コンサル)	見せたいものを見せようとする工夫をすると、さらに良くなるかと思う。それが恐らく市民の意識にも繋がるだろうと考えている。一番大事なのは玉名市として見せたい景観をどのように見せていくかという点だと思う。
副 委 員 長	「戦略がない」という話に繋がるかと思う。
事 務 局	<p>本日、森山委員が欠席ということで、ファクスでご意見を頂いている。読み上げさせて頂く。景観づくりを進めていく上で最も重要だと思う課題としての意見は、『景観計画に関する市民の意識の向上が必要だと考える。景観の現状や特性の分析を終えた現在、その報告会や景観計画に関する市民との意見交換会が開催できないかと考えている。意見交換の方法として自治区や校区ごとの集会では意見が出にくい予想もあるが、各種団体や企業、年配の方まで幅広い年代に、届け出が必要な行為、基準などを用意して検討を求める等、具体的な質問を行い、意見がなるべく出やすい方法を検討していただきたい。』と意見を頂いている。</p> <p>また、優先度を高くして改善すべき問題点としての意見は、『景観形成に関する課題等、個々の検討が必要である。資料内の課題 A から F まで素晴らしい資料だと考える。これを十分生かして魅力ある玉名市への実現を考えたい。上記の市民の意見を聞く機会を景観計画だけにとどまらず、この課題に対しても実施を検討して頂きたい。』という意見を</p>

	<p>頂いており、さらに、『新玉名駅、市役所周辺の計画、開発が進む駅周辺を後手にならないようにしたい』と意見を頂いている。</p>
副委員長	<p>現状の課題としては、今まで出ていない意見としては「年代、世代を超えた交流がない」という点だと思う。また、「新玉名駅が生かせてない」という意見も新たにあるかと思う。</p> <p>皆様から頂いた意見を全て話し合い、解決することは難しいので、この中から重要な課題をさらに整理する必要がある。印象的だったのは、「玉名に何があるのか分からない」「一言で語れない」「良いものがあり過ぎる」という意見があった。課題としてはこれらが、課題を考える上で基礎になるかと思う。</p> <p>これまで出ていない意見—や足りない意見等がなければ、フリーディスカッションに入りたいと思う。</p>
委員	<p>歴史についての認識が希薄であるという話があったが、旧天水町は地域を「ミカンと草枕の里」という形で売り出していた。しかし小説「草枕」を使っている割には、誰も『草枕』のことを知らない。それぞれ勉強会を中村先生と一緒に、住民等を募って行ったが、人が集まらなかった。理由の一つは『草枕』—小説『草枕』が読みにくい。</p> <p>もう一つは経済にゆとりがないと勉強会のような会に参加しないということだと思う。時間的な余裕がないのだと思う。定期的にだけでも、歴史の勉強会とか部分、部分で行っていかないと、歴史に対する認識は広がらないのではないかと考えている。</p>
副委員長	<p>これまでの取り組みを知らないっていうのは、もったいないことだと考える。玉名市は様々な活動が盛んだと思う。自分達が認識していないだけで、実はもう行っているというような活動は多くあるのではないかと思う。</p> <p>経済が潤っていないとは具体的にどのようなことか。</p>
委員	<p>部分的な話となるが、農業を例に示すと、農業でも、売り上げが少ない所と、全国的にも売り上げが高い所もある。この売り上げが少ない所は、石垣が崩れてきている、荒れ地ができるというようなことになっている。</p>
副委員長	<p>歴史認識の話も同様だが、地域差があり、地域によって良い所と悪いところがあるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>小学校・中学校は総合学習会というような形など、景観や歴史等を学ぶ期間を設けているのか。</p>
事務局	<p>授業で玉名学っていうのが立ち上がりつつある。まだモデル校で実践しているような段階である。</p>
事務局	<p>ある方から、『玉名市は歴史を捨ててきた』ということを知ったことがある。</p>
委員	<p>伊倉出身だが、歴史については、私は伊倉小学校で「伊倉は凄い所だ、玉名市の中で最初にできた町だ。」という学習を受けてきた。他にも船着場や様々な素晴らしいものが資源として存在したが、いつの間にか廃れてしまって、とても寂しく感じている。だか</p>

ら、もっと地域の歴史をPRし、玉名市の景観としてアピールしていく必要があるのではないかな。

副委員長

私も玉名市外から訪れているが、玉名市の良い所ばかりを見せてもらっている気がする。このような話を聞いていると、委員の皆様は、玉名に誇り持っているように感じる。つまり、地域の活動に取り組んでいる方と取り組んでいない方などが玉名市内には混在していて、格差があるという印象を受けた。そういった、取り組み意識等が低い方々が景観計画の中に混じっていないと感じている。私たちだけで景観計画を勝手につくったと思われると損なので、本当に具体的なデータになっているのかどうか、深堀りをしていく必要があるかと思う。

また、お互いのことを知らない、世代間でそれぞれ大人と子どもが、お互いを知らない、役所に関しても課間でお互いのことを知らない等々、「知らない」ということも重要なキーワードになるかと考えている。小学校区ごとの取り組みで「玉名21の星事業」というものがあったかと思うが、この事業は具体的にどのような取り組みを行っているのか。

事務局

事業自体は終了したが、まず合併前の玉名市で一区一輝事業という名称で始まった。その事業は、小学校区ごとに、祭りや地域の史跡の掘り起こし、学習会など様々な取組を、校区の方々が話し合いをして企画・計画するといったものであった。当初5年計画で事業を進めていたが、市が合併し、横島、天水、岱明の全21校区に広がり、玉名21の星事業という形で、運動が行われた。

資料でお示した地域の景観活動の取り組みについては、21の星事業がベースになっているものが多い。また、地域でもともと活動に取り組んでいる校区であったり、支館などの活動をしている校区とつながっている所は活動・取組がずっと続いているが、繋がりが切れている所は休止していたり、補助金が切れたので休止するということもある。現在は校区という形ではなく、取り組みを行いたいという団体には補助金を出す制度は一つ残ってはいるが、取り組みは減少している状況である。

副委員長

資料の2ページに課題A～Fまで記載があるが、特にこれを見ていただいて、まだ、この中に記載しなければならないという事柄があれば意見を頂ければと思う。玉名には多くの資源があるが、格差があり、その差をどのように埋めていくかは来年の課題になるかと考えている。現在は問題点なので、「差がある」というところまでに止める。ここでの差とは、例えば世代間、年配の人と子どもとの差、地域間での差、あとは専門家と非専門家での差、観光客と地元の人との差等々、差が多くある。これが問題点の一つだと考える。

「関係がない」という問題も関係を持とうとしない、つながろうとしないことが問題なのだと考える。また、「意識が低い」というのも、知りたくないと思っている、関係ないと思っていることのほうが深刻だと考える。

どうしようもない問題、手の打ち用がない問題もあるのではないかと考えている。例えば、人口が減少することは、仕方がない問題である。そのため、少なくとも、最低限減らさないようにするという話もあるかと思うが、担い手の話についても同様のことが

	言えるのではないかと考えている。農業についても同様ではないか。
委 員	農業も昔は部落とか、様々な井戸端会議等の人とのつながりがあって、苦しいながらも助け合っていたかと思う。現在は農業の機械化や、農家自体の格差が広がって、一つのことをなそうとするときに、皆で協力する気持ちが薄れてきた面がどうしても見受けられる。
副 委 員 長	<p>「町の顔がない」という意見が出たが、新幹線も、もちろん町の顔になり得るが、例えば天水のミカン畑も町の顔になり得る。玉名市はどうなりたいのかという問題がある。両方を顔にするのであれば、そのような景観計画としなければならないし、例えば、新幹線駅で来た人を直接温泉まで連れて行くのではなく、ミカン畑のほうに連れて行く方法もある。</p> <p>本日は玉名市の景観課題について皆様の意見をまとめた。これを来年は解決策のほうに導けるようにしたいと考えている。本年の委員会は2回だったが、その間勉強会を行い、こうやって他の人が作った資料ではなくて、皆さんが議論して、つむいでできた成果図はこのようなものだというものを示すことができたと思う。これらのまとめを、形にして、解決策を来年から考えていくことができれば、委員会の仕事がちゃんと出来たと言えるのではないかと考えている。最後に皆様の意見をまとめたので、これを基にもう一回皆様から感想・意見を頂きたい。</p>
委 員	私はミカン農家だが、自身の子どもは3人全員、市外に出している。子ども達には、ミカン農家で生活していくには難しいため、好きな仕事をするよう伝えた。農業は趣味として、行いなさいということを伝えている。これはまさに「どうしようもない」問題なのではないかと考えている。また、「関係を持たない」という言葉が職員の方から意見が出たが、それは職員の方々の意識が低いという問題ではなく、職場のシステムで、縦割りのやり方が「関係を持たない」というスタンスを生み出してしまっているのではないかと考えている。
副 委 員 長	<p>「どうしようもない」ところがキーになって、解決策が生まれるのではないかと考えている。短所を長所にとよく言われるが、6次産業化だとか、ソーシャルイノベーションなど、大体どうにもならない所から、急に解決策が生まれるものなので、そういう意味では農業が課題の解決としてキーとなっていくこともあるかと思う。</p> <p>もう一つ、「関係を持たない」とか、「無関係と思い込んでいる」というのは、決して職員の方だけではなくて、往々にして例えば農業の方は漁業のことをどう思っておられるか、サラリーマンが農業のことを考えているかということもある。私たちも、熊本市民だと思っていて、玉名のことは関係ないと思っているかもしれないし、新幹線利用者が玉名の漁村のことを考えていない等、様々なことが考えられる。</p>
委 員	玉名駅周辺を何とかすべきではないかというのが正直な気持ちである。それに向かって来年度、この委員をさせていただくならば、玉名駅周辺をどのように整備していくかに向かっていくように思う。

委員	<p>景観行政がうまくいけば人口減少も歯止めがかかると思う。新幹線や高速のインター出ても、町の顔がみえないという話があったが、例えば森や林の中に居ると全体の格好が見えないのと一緒に考える。だから、外から来た人には、玉名を見れば、雰囲気はよく分かるかと思う。地元の人はどこに何があるかもあらかじめ分かるから、標識は必要ないが、ただ、課題を挙げると言えば、やはり標識で、しかも最近ユニバーサルデザインで玉名のこの周辺にも英語標識が入ってきている。良く言えば中国、韓国ぐらいまでは欲しい。</p>
委員	<p>いろんなご意見等々、今の課題ということで分かりやすく整理していただいて、良かったと思う反面、「差がある」という点で、私自身、今一生懸命、勉強して玉名をどう売っていくかという仕事をしている。課題としてこの「差がある」という部分は、そういった教育の中に入っていくような部分だと思う。観光の側面から言えば、玉名市はこれまで、本当に観光という戦略を持って動いてきていないというのが一言で言うと実情だと思う。そういった意味で景観に関しても、多分今がスタート地点にあるということ、ポジティブに受け取って進めていけるのではないかと考えている。先ほど、ランドブレインの方が「町の顔がない」と言われていた。逆に町の顔があると思われる所はどのような場所があるかを、お聞きしたい。</p>
事務局	<p>例えば山口県萩市では、広告物、屋外広告物、看板の色・大きさを規制しており、沿道にある建物も、建築的に良いか悪いかは別にして、和風の建物が建ち並んでおり、歴史を売り出している町だということが、萩を訪れる過程でよく分かるようになっている。</p>
副委員長	<p>まさに景観は気付くことができれば、そこから勉強できるものだと考えている。「景観は県や市の人が行うもので、自身には関係ない」と一般の方に思われがちだが、「関係ない」と思っていたことが、実は関係していると気づくことができた瞬間、それが売りになるということもある。今からスタートすると思う事は大事で、本当にそういう機会になれば良いと考えている。</p>
委員	<p>4、5年前、都会で頑張ってたっしやる、高給取りの友達が玉名市に来た。その方は带状疱疹とストレスを抱えていたが、私の家に1泊したとき、「玉名に来て元気になった」と言って帰っていった。そういう地域や農家の良さは、農家自身には分からない。しかし、おもてなしの心が、地域の人たちに根付けば、様々な所から人を呼び寄せられる力をつけることができると思う。そういうことも景観計画の策定過程で勉強していきたいと思った。</p>
委員	<p>事務局からアンケートの結果を頂いたが、「町の顔がない」という話で、24 ページの「あなたが思う玉名らしい景観とは」という問を見ると、「温泉街」がダントツの1番となっている。また、P23の「良好な景観づくりに向けて守り育てるべき重要な場所とは」という問いでは「九州新幹線玉名駅周辺」が1番となっている。自身、歴史に関する仕事をしているので、玉名市の景観といえば、高瀬裏川や高瀬の町並み、菊池川、伊倉の町並みを思い浮かべる。しかし、一般市民の認識では、玉名市の景観といえば「温泉街」、</p>

	「九州新幹線」と認識している。この点に一つ問題があると考えている。
副委員長	私が最初に玉名を訪れたとき、高瀬裏川を見学したが、玉名市の皆様は菊池川の話誰もしていなかった。そのような歴史的な景観資源は大事であるが、玉名市民の方々にとって、裏川や菊池川への認識・意識は薄いのだと感じた。「実は景観資源として素晴らしい」というものが玉名市には多くありそうだと考えている。それらを丁寧に汲み取っていかないと、単なる上辺だけの歴史と伝統が目立され、新幹線と繋がれば良いというような、安易な計画づくりになってしまうと考えている。
委員	今、新玉名駅周辺は、熊本県の条例では、出店をしていないと看板を出してはいけないことになっている。福岡県は駅の周辺だけは看板を除外している。条例もつくるといいうことだったので、県の条例と全く一緒でなくても良いのではないかな。
副委員長	その辺りの設計は細心の注意をはらう必要がある。もしかすると、福岡県の広告が建てられる可能性もあり、「Uターンしてここへ来て」というような広告が出始めると良くないので、地元が行って良いことと、良くないこと、行うべきことをよく考えて頂きたいと考えている。
委員	玉名市に何もないという現状だと、悲惨な計画だが、あり過ぎて困るということは、良いことだと思う。逆に、良いものがあり過ぎるからこそ、市民の方々が妙に安心してしまっているところがあり、景観について真剣に考えていないということはあると思う。良い景観というものを一つ一つ紐解き、それを全部引き上げられるような計画策定を目指さなければいけないという感想を持った。
委員	私は伊倉出身だが、伊倉内には、地域の歴史に詳しい人がいるので、その人を交えて、まちづくり委員会の中で歴史の勉強会を定期的に行っている。自身も時間のあるときは参加するが、今この年になって地域の歴史について分かってきたように思っている。これからも時間がある限り、歴史について勉強、その他いろいろな面にも勉強していきたいと考えている。
委員	この前のバスツアーで、皆様に鍋の海水浴場に行った。その10日ぐらい前、鍋の海水浴場で映画のロケを行っていた。なぜ玉名市の海水浴場を選んだかについては、「いろんな所を見たけどここが良い」という理由であった。ちょうど1カ月ぐらい前までは、ゴミが多かったが、バスツアーで見学に行ったときには掃除が終わっていたので、掃除をしておいてよかったと感じた。県唯一の海水浴場であり、見晴らしの良い景観を見ることができるので、いつもきれいにしておく必要があると思った。島原を見るだけが景観ではない。その現場をいつもきれいにしておかなければとつくづく感じた。
委員	「町の顔がない」という話があったが、「玉名市の銀座」はどこかと前々から考えていた。商店街等、町としてどこがメインなのか、そのようなメインの場がないと感じた。

副委員長	<p>私は玉名駅が勿体無いと思っている。あんなに多くの高校生が出入りする駅はそう多くはないと考えている。玉名市の子どもは、皆、地元から学校へ通う子が多いイメージがある。駅というと、新玉名駅の宣伝ばかりなので、玉名駅周辺についても、なにかに使えないかと考えている。例えば、高校生と一緒にまちづくり等を行う場としたら面白いと感じている。駅だけでなく、商店街同士でも対抗心というものがあっても良いかと思う。</p>
委員長	<p>玉名市には高校が5つあり、大学まである。若い人が集まる場所が多いと感じている。若い人は、高瀬については知らないけど、カラオケ店は知っているという現状は問題だと考えている。地域差もあるかと思う。</p> <p>人口減少と言われているが、築山小学校など、増加している地域もある。その増加している地域について、なぜ人口が増加したのか、その要因を調べる必要があると思う。</p> <p>また地元は地元の良さを知らないと感じている。高瀬で花しょうぶまつりを行っており、そこで古民家を2週間程借りて、お土産を売っている。地方、遠方の客からは「高瀬のこの通りは良い」とよく言われる。自分達にはどの点が立派なのかわからないが、その良いと呼ばれる所を守っていく必要があると考えている。</p> <p>地域の良さは地域に隠れているが、まだ見つけられていないし、良さを引き出していないと考えている。例えば農業や過疎地でも、若い人は居ないが、そこにはその場所の良さを物語る、その場所なりのヒントがあると思う。</p> <p>駅通りにも同様に良い点はあるかと思う。そういった点を早く見つけてあげることが必要だと考えている。良い点をみつけるというときに、若い人とコミュニケーションを取ることが今後は大事だと考えている。京都では様々なところで、若い人が古民家をつくり、歴史を守りつつ、民家内では奇抜なもの売っていたりする。もっと若い人とコミュニケーションを取って一緒にまちづくりをしていく必要があると考えている。</p>
副委員長	<p>職場への通勤や、学校への通学は必然的に行わなければならないことで、毎日通らなければならない場所や道がある。この必然をつくることは不可能なことなので、現在のこの必然性を生かしていくことも必要だと考えている。</p>
委員長	<p>玉名市に、まちづくりに関わって5、6年が経過するが、「必死感がない」というのが、感想である。今回のこの委員会で委員を務めるにあたり、何か決まり事をつくり、それで終わりということにはしたくないというのが本音である。</p> <p>高瀬に関わりだしたのは、十数年前に自分の研究の対象が、高瀬のような町を対象にしており、高瀬を周ったとき、高瀬にも町並みや歴史資源が残っていると感じ、そこから関わりだしたのがきっかけである。</p> <p>高瀬は当たり前のものだけど、大事であることについて、記録なり、伝えることを怠ってきたという印象を受ける。本日話題になった伊倉の大浜にも、高瀬ほどではないが府古民家が残っており、独特な景観をしていると思う。伊倉は二つの神社があり、道路を境にして町が異なっている点が面白い。この2つをなぜ面で結ばないのかと疑問に思っていたが、やはり簡単には上手くいかないということを感じた。</p>

景観は単に場所が繋がっているだけでなく、ストーリー性を作る必要があるかと思う。高瀬もあの場所は裏にお寺があるのが魅力なので、どうにか裏川までの魅力を創出して欲しいと考えている。この観点で言うと、やはり居住人口が問題であり、商店の中にかくに人を住まわすか、という計画は大事だと考えている。どうにかつながり・関係性を見える形にしていきたいと考えている。

「菊池川の話が出ない」という件もこの問題とつながっていると思う。今後の中で、皆さんと議論できれば、「差がある」という問題もどうにか解消できるのかもしれないと考えている。

委員 堀先生が講演された景観学習会のときに、高瀬の1店舗について景観に配慮しコーディネートしたかと思う。その店舗へ帰りに寄ってお話をしたが、「景観に配慮した店舗づくりをこのまま続けられるのか」という質問をしたら「今日だけ」という回答を頂いた。景観に対する意識がやはりまだ足りないかと思う。

委員長 やはり、ものを置くだけじゃ効果がなく、店の中の人やりとりを行う必要があるし、継続性をどのように担保するかということを考えなくてはならない。

副委員長 この間、小布施のまちづくりのコーディネーターの方が、「何かをさせようというような、巻き込もうと思うのは良くて、そういうことは嫌がられる」と言われていた。また、「まず友達になろう」ということが大事だと言われていた。

やはり「景観はつながっている」という委員長の言葉が印象的だった。農村の風景と、新玉名駅の風景もつながっているが、それがどのようにつながっているのかを考える必要がある。そのためには、人のつながりとして、まずお互いのことを知ることが大事だと考えている。なぜ地域にまちづくりの継承者が居ないのかということにもつながっているかと思う。観光客の人にアンケートを採ってみることも良いかと思う。せっかく膨大な調査結果があるので、それを還元していく必要もあると思う。

5. 今後の予定について

(説明：事務局)

事務局 今回の意見のまとめ、結果は改めてまとめ直し、皆様に後日お示しする。
平成26年度の策定委員会は本日で最後となる。次回は4月中に策定委員会を開催する予定であり、今後の計画に関わる部分を審議して頂くことになる。詳細は後日改めて連絡をするので、よろしくお願いしたい。

6. その他

意見なし

以上